



CASE  
1

## 「表現力」で魅せるプリント

【一の彩 (有限会社めまくら) | <http://www.ichinosai.com/>】

〒012-0813 秋田県湯沢市前森 4-2-12 / TEL.0120-1031-82・FAX.0183-79-6862  
E-mail: office@ichinosai.com

「共に創るモノづくりを目指しています」と  
沼倉佑亮さん



デザイナーと職人をつなぎ、  
「たったひとつ」のプリントを。

### 受注生産から、提案型の営業へ

有限会社めまくらは、湯沢市の中心地で飲食店などを運営する会社として1972年に設立。現社長で2代目の沼倉克彦さんが布製品へのプリント加工を行う工場を創設。県内随一のシルクプリント工場へと成長する。現在は「一の彩」として、加工を行うファクトリー部門と、アパレル製品の提案型営業・企画販売を行うプロデュース部門、2つの事業を柱として経営を行っている。

「一の彩」というブランド名は、克彦さんの息子でマネージャーの沼倉佑亮さんが大学在学中、プリントの企画提案事業を行った際に使い始めた名前だ。「受注生産をするだけの工場から、提案型の企業へと変身できないか」と考えた佑亮さんは、サンプルを携えて営業活動を始めた。学生の営業など相手にされず、受注が取れない時期もあったが、服飾デザインの専門学校に通い、社会人と学生が動く目的を考えるサークルの代表も務めるなど、行動範囲の広い佑亮さん。人脈を生かし、在学中から多くの受注をとった。卒業後は大手繊維メーカーに就職。2016年、本格的に家業に就いた。

### 自分たちの加工技術を発信できる企業に

一の彩の営業を通じて佑亮さんが改めて気づいたのは、自分たちの工場が持つ技術の高さ。しかし、デザインの現場と加工を行う工場との間に全く接点がないため、どんな加工ができるのかがデザイナーに認知されていなかった。そこで、佑亮さんが考えたのは、一の彩でできることを積極的に発信すること。デザイナーと職人とをつなげ、ともにクリエイトすること。「安さだけを求めるのではなく、理想を実現するために一緒に努力する、そんなモノづくりがしたい」と佑亮さん。当センター主催の「起業家交流展」には2年連続で出展。ともにモノづくりができる企業との出会いもあり、更なる人脈づくりにつながった。今後の活躍に期待だ。



▲ 様々な加工表現のサンプルが並び  
ショールーム  
B 工場で一枚一枚職人の手作業で加工が  
行われる  
C 将来の海外進出も見越して、社名・  
ショールームは和のテイストに。  
D 今年10月、あきた拠点センター・アル  
ヴェで開催された「起業家交流展」での  
様子

### 事業概要 起業家交流展

県内に事業所を構える創業・起業家同士の交流を図ることで、新たな人脈づくり、事業の継続・発展、新しいビジネスの創出に繋げることを目的に開催します。

お問い合わせ あきた企業活性化センター／総合相談課  
(018-860-5610)まで。